

4. 行政サービスに対する企業側の評価、その他期待する行政サービス

現地インタビュー調査においては、進出する企業にとってのオランダの主な魅力としては、まずオランダ立地と税制上の優遇措置があげられるが、それに次いで NFIA や地方政府・機関による情報提供やアドバイス、コーディネーター等の手厚いサービスも大きな魅力となっているとの意見があった。

立地については、他のヨーロッパ諸国へのアクセスの良さ等から、オペレーション上の営業や物流に関するヨーロッパ市場全体の統括本部の拠点をオランダにするというケースが多いが、意思決定の総括本部は英国を拠点としている場合が多いとのことである。

法人税率については、オランダにおいては比較的到低いとの認識であるとの意見が企業団体等から聞かれた。法人税率の引下げと同時に課税ベースの拡大が実施されたが、既に10年度経過しており、これに対する反発は今ではあまり見られないとのことである。また、優遇措置については、財務省によれば、特に税務連結体制度 (fiscal unitary regime)、損失繰越 (loss carry over facilities)、資本参加免税 (participation exemption) の3つが国内外の企業にとっての主な魅力であると考えているとのことである。

NFIA や地方政府・機関によるオランダ進出企業に対するサポートについては、各企業のニーズに合わせて柔軟に対応しているとの評価を受けている。情報提供やアドバイス等のサポートのみでなく、関連機関とのコーディネーターとしての機能も果たし、企業の人材ニーズに合わせて職業訓練学校のカリキュラムをカスタマイズする場合等がある。また企業がオランダに進出した後にも、継続してサポートが提供されているとのことである。